

『賀川豊彦著作選集』の完結と記念集会の開催について

一般財団法人アジア・ユーラシア総合研究所が発足初年度の 2017 年度最重要プロジェクトに位置付けていた『賀川豊彦著作選集』全 5 巻がめでたく 2018 年 2 月に完結致しました。

今回の出版は、2017 年度初めからほぼ 1 年がかりの事業でしたが、限られた時間と限られた資金の中で実施されたプロジェクトであり問題、課題も続出したものの、多くの関係者の皆様のご支援を得て、無事完結にこぎ着けることが出来ましたことは誠に慶びに堪えません。

賀川豊彦の著作のまとまった形での今回の出版は、今から 50 年以上前、1964 年から 66 年にかけて出版された『賀川豊彦全集』全 24 巻（キリスト新聞社刊）以来とされ、かつて世界的偉人とも称された賀川豊彦の精神を今、改めて見直す契機ともなり、誠に有意義なことと存じます。

2018 年 3 月 22 日、『賀川豊彦著作選集』の完結を記念して、記念集会が桜美林大学千駄ヶ谷キャンパスで開催されました。

当日は、賀川豊彦記念松沢資料館副館長杉浦秀典氏の司会で、まず賀川豊彦の映像が紹介され、次いで本プロジェクトの代表でアジア・ユーラシア総合研究所代表理事、所長の川西重忠が、出版の経緯を紹介して謝辞を述べました。川西重忠は、賀川豊彦著作選集を出した理由として、まずご自身が奉職した桜美林大学は賀川豊彦があつて出来た大学であることをあげました。また川西重忠は、神田の書店街に行つて、賀川の本が少なく、忘れられていることを知り、これでいいのかと考え、賀川の著作を出版する決心をしたとのこと。それでは何を選ぶかと考えて、まず『死線を越えて』を選ぶこととし、また、『一粒の麦』『乳と蜜の流るる郷』を選んだとのこと。神戸に行つて、鳥飼慶陽先生に会つたのは、伴武澄さんが自分は賀川を良く知っているが、鳥飼先生にだけはかなわない、と言つておられたので、是非共、鳥飼先生にお会いしたいと思い連絡したところ、お会いすることができた。鳥飼先生にお会いできたから、この 5 巻が出来たと語り、人の縁を感じると話しました。また、一つのエピソードとして 4, 5 日前に、神保町の友愛書房で、店主がいいものがあると言つて掛け軸を見せてくれた話をしました。それは、賀川豊彦が岡田喜一氏の為にした書でした。この書にめぐり会つたのは今日の記念集会があつたからである、として掛け軸を披露しました。賀川は問題の多い人であつたことは確かだが、まずこの 5 冊を読んで賀川を良く知りましょう、と締めくくりました。

そのあと、加山久夫氏（賀川豊彦記念松沢資料館理事長、明治学院大学名誉教授）、鳥飼慶陽氏（番町出會の家牧師）、伴武澄氏（国際平和協会会長、元共同通院記者）がそれぞれスピーチを行いました。

加山久夫氏は、あれだけ有名だつた賀川が急速に忘れられた理由について、凡そ次のように話されました。

賀川は貧困の問題と正面から向き合つた。しかし、日本が豊かになつて、もはや戦後ではない、と言われるようになり、賀川も過去に追いやられた。いま、賀川豊彦学会には会員が数十人おり、時代がもう一度、賀川に近づいてきた感がある。賀川は全ての面で素人であつた。神学者でも聖書学者でもなかつた。私から言わせれば、非凡なる素人であつた。しかし、今日もう一度求められている人物である。賀川の対象は知識人ではなかつた。書き残されたものを、専門家は高く評価しない。賀川は小説をたくさん書いたが、文芸評論家は賀川を無視している。賀川は大衆の為にした。しかし、賀川を測る座標軸自体に問われなければならない問題がある。日本の知的風土にも問題がある。

最後に、久山氏は、今回の出版を出発点として、賀川が再評価されなければならない、と締めくくりました。

鳥飼慶陽氏は、全 5 巻が完結したことを大いに喜び、およそ次のように話されました。この全 5 巻はなかなかのものであり、協同組合運動をやる人たちにとつても、とてもいい

テキストになると感じた。全国の図書館に備えられて、若い人たちや、いい意味の賀川愛好家に読まれていくことを大いに期待している。

伴武澄氏はおよそ次のように話されました。私がデジタル化した賀川の作品の一部がこの全 5 巻になったことを嬉しく思う。鳥飼先生は、殆どの初版本を持っておられる。鳥飼先生にたいへん助けられた。

賀川は夢の中で大阪市長になり、公害という言葉がない時代に、公害対策を講じた。賀川は確かに素人だが、素晴らしい発想力を持っている。ド素人のすごさは、なぜだ、なぜだと考えることである。

最後に大久保勲（福山大学名誉教授、当研究所監事）が閉会の辞を述べました。

なお『賀川豊彦著作選集』全 5 巻の内容は次の通りであります。

第 1 巻『死線を越えて（上・中）』（解説：金井新二）

賀川豊彦の代表作『死線を越えて』の上・中巻を収録。賀川の現代的意義を解説で説明。賀川の自伝小説。

第 2 巻『死線を越えて（下）/空中征服』（解説：田辺健二）

400 万部を超える空前のベストセラーの下巻を収める。併せて、現代の環境問題に通じる都市問題を当時日本最大の人口を擁する大阪を題材に賀川大阪市長が抱負を語る。

第 3 巻『一粒の麦/乳と蜜の流るる郷』（解説：鳥飼慶陽）

『死線を越えて』に次ぐ人気を誇る 2 大話題作。2 冊を合本した贅沢版。賀川得意の目的小説の代表作 2 冊を併録。

第 4 巻『キリスト兄弟愛と経済改造/少年平和読本/魂の彫刻』（解説：伴 武澄）

賀川の理論面を代表する作品を収録。オリジナル版からの収録『少年平和読本』は現代の日本が直面している問題でもある。教育のバイブル『魂の彫刻』も収録。

第 5 巻『賀川豊彦随筆集』（解説：西 義人）

本著作選集刊行に伴い、新発見した未公開の賀川随筆文集。賀川の本領が随筆の中で躍動する。日本・世界初公開文書。

体裁：四六判 縦書き 上製

価格：第 1 巻～第 3 巻 各本体価格 3,600 円 第 4 巻～第 5 巻 本体価格 3,000 円

5 巻セット販売特別価格 15,000 円（税・送料込み）